

復興大臣 吉野 正芳 様
文部科学大臣 松野 博一 様
環境大臣 山本 公一 様
福島県知事 内堀 雅雄 様

2017年6月26日

全国保養団体の公的支援を求める要望書

東京電力福島第一原発事故以降、全国の多くの民間団体が市民レベルで、福島県又はその近隣の子どもたちや保護者のニーズに応え、野外活動を中心とする保養プログラムを実施してきました。

7年目を迎え、保養参加者は1年間で延べ9000人以上と依然として多く、希望者はさらにそれ以上であるのに対し、全国各地の団体は、人的にも資金的にも疲弊してきている状況が分かっています。(「保養実態調査」資料①・③)

また、復興・帰還政策の中で、避難から帰還された方にとって、保養プログラムは安心して福島で暮らすために大変重要な機会であり、今までの希望者に加え、さらに希望者が増えている状況です。(資料②)

本来、「原発事故子ども・被災者支援法」に法り、国の制度としてすべての子どもたちに同様の機会が保障されることが望ましいのですが、現段階では私たち市民レベルでの保養が1団体でも多く、1年でも長く継続することが求められております。(資料④)

私たち市民レベルの保養団体も、一人でも多くの子どもたちが保養の機会を得られるよう、安全管理を徹底するなどお互いに情報を交換し合い、保養の質の向上に尽力する所存です。

国や福島県におかれましても、是非、下記要望に耳を傾けていただきたくお願いいたします。

<要望>

原発事故子ども・被災者支援法に基づき、「保養」を国の制度に位置付けてください。

当面の間、全国で多くの民間団体が実施している保養プログラムに公的支援をお願いします。

資料① 「保養実態調査報告書」

資料② 「保養参加者の声」

資料③ 実態調査報告書概要

資料④ 子ども被災者支援法抜粋

■リフレッシュサポート 070-6452-1082 疋田(ヒキタ)
info.re.sup@gmail.com
■福島ぽかぽかプロジェクト事務局
〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9 FoE Japan 内
Tel:03-6909-5983 Fax:03-6909-5986 090-9364-6472(矢野)

賛同団体(当事者団体/保養うけいれ支援者団体)計 108 団体

seeds for いわきの子どもたち(福島県)/子どもの未来を守る母の会 いわき(福島県)/たこ焼きキャンプ FUKUSHIMA(福島県)/踏青楽舎(福島県)/福島ぽかぽかキッズ(福島県)/いわきの子供を守るネットワーク(福島県)/mama'p(福島県)/NPO 法人福島の子どもたちを守る保養プロジェクト(福島県)/NPO 法人 森の遊学舎/こめらの森・南会津(福島県)/特定非営利活動法人シャローム(福島県)/特定非営利活動法人青空保育たけの子(福島県)/はっぴーあいらんど☆ネットワーク(福島県)/特定非営利活動法人ライフケア(福島県)/子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト・郡山(福島県)/会津放射能

情報センター(福島県)／手をつなぐ 3.11 信州(長野県)／むさしのスマイル(東京都)／とちの実保養応援団(栃木県)／日本基督教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ(宮城県)／未知の会(宮城県)／NPO 法人みみをすますプロジェクト(北海道)／NPO 法人福島の子どもたちを守る会・北海道(北海道)／カトリック札幌地区正義と平和協議会(北海道)／かみしほろ 5000 本のひまわりの会(北海道)／たどしこぶしの会(北海道)／フクシマとつながる苫小牧(北海道)／ふらのチャリティウォーク(北海道)／一般財団法人函館YWCA(北海道)／真宗支援ネットオンコのかげはし(北海道)／福島の声に耳をかたむけるプロジェクト(通称:ふくみみ)(北海道)／1000 人で支える子ども保養プロジェクト(秋田県)／TEAM 毎週末みんなで山形(山形県)／フクシマの子どもの未来を守る家(山形県)／葉っぱ塾(山形県)／NPO 法人 SEEDS OF HOPE(埼玉県)／生活協同組合パルシステム千葉(千葉県)／KIDS DOLPHIN CAMP(東京都)／NPO 法人アースマンシップ(東京都)／NPO 法人みんな地球の子どもじゃん(東京都)／NPO 法人放射線測定室アスナロ(東京都)／なかのアクション・福島子ども保養プロジェクト(東京都)／はちみつ會(東京都)／ブンブンの会(東京都)／リフレッシュサポート(東京都)／原子力行政を問い直す宗教者の会(東京都)／特定非営利活動法人福島こども保養プロジェクト・練馬(東京都)／日本YWCA(東京都)／福島っこ元気村キャンプ(東京都)／福島のこども保養inあきる野(東京都)／福島の子どもたちとともに・世田谷の会(東京都)／福島ぽかぽかプロジェクト(東京都)／福島子ども支援・八王子(東京都)／「福島の子どもたちとともに」川崎市民の会(神奈川県)／リフレッシュ@かながわ(神奈川県)／神奈川県生活協同組合連合会(神奈川県)／生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ(神奈川県)／長瀬やなせ カラップのおうちの会(神奈川県)／福島の子どもたちとともに・湘南の会(神奈川県)／福島の子どもたちとともに・西湘の会(神奈川県)／保養ネット・よこはま(神奈川県)／ふくしま・かなざわキッズ交流実行委員会(石川県)／ふくしまっ子チャレンジスクール実行委員会(石川県)／NPO 法人殿下未来工房(殿下被災者受入委員会(福井県)／TERRA ねっと福井(福井県)／福井市自然体験交流推進協議会(福井県)／4月3日のひろば(山梨県)／野外学校 Feel Our Soul(山梨県)／フクシマの子どもサマーキャンプサポート隊(長野県)／子どもたちを放射能から守る信州ネットワーク・北信(長野県)／NPO法人KIプロジェクト(岐阜県)／青空の下つながろう会(岐阜県)／子どもたちを放射能から守る伊豆の会(静岡県)／親子わくわくピクニック実行委員会(静岡県)／生活協同組合パルシステム静岡(静岡県)／福島子ども支援基金(静岡県)／おいでん！福島っ子！運営委員会(愛知県)／公益財団法人 名古屋 YWCA (愛知県)／ふくしまいせしまの会(三重県)／びわこ☆1・2・3 キャンプ実行委員会(滋賀県)／養生プロジェクト in 滋賀～みんなでつくる保養～(滋賀県)／ゴー！ゴー！ワクワクキャンプ(京都府)／ふくしまこどもキャンプ丹後の海(京都府)／京都 YWCA(京都府)／絆キャンプ in 京都実行委員会(京都府)／たかつき保養キャンプ・プロジェクト(大阪府)／チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西(大阪府)／よつば関西保養キャンプ実行委員会(大阪府)／子どもたちに未来をわたしたい大阪の会(大阪府)／心援隊(大阪府)／吹夢キャンプ(大阪府)／どろんこキャラバン☆たんば(兵庫県)／笑顔つながるささやまステイ実行委員会(兵庫県)／東はりま ゆるわくキャンプ(兵庫県)／福島の子どもを招きたい！明石プロジェクト(兵庫県)／福島ハーメルン・プロジェクトジョイントチームチーム(兵庫県)／宝塚保養キャンプ実行委員会(兵庫県)／保養の旅えんむすび(奈良県)／風輪(鳥取県)／さよなら原発ママパパ美作ネットワーク(岡山県)／子ども未来・愛ネットワーク(岡山県)／一般財団法人 呉YWCA(広島県)／関門保養プロジェクト・下関(山口県)／福島～山口 いのちの会(山口県)／NPO 法人 SEEDS OF HOPE(香川県)／NPO 法人福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト(香川県)／(公財)福岡 YWCA(福岡県)／熊本 YWCA「福島&熊本キッズ 春のわくわくキャンプ」(熊本県)／特定非営利活動法人アースウォーカーズ(宮崎県)

資料①「保養実態調査報告書」(リフレッシュサポート・311 受入全国協議会による調査) 別添付

資料②「保養参加者の声」別添付

資料③ 保養実態調査概要(「保養実態調査報告書」より要約)

■調査の目的

(1)全国で行われている保養について、近年の実施数、参加者数などの概要を調査すること

(2)保養に取り組む団体が直面している課題を集約し、可視化すること

(3)保養に対する公的支援が、どの程度利用できているか明らかにすること

■対象 :2014年11月1日から2015年10月31日までに、原発事故の影響があった地域から子ども(保護者も含む)の保養受け入れを行った、団体の代表者・事務局長など。

■期間と回答 :調査の保養開催期間を1年間に絞り、234団体にアンケート用紙を送り、107団体から回答を得た。(回収率45.7%)

◆保養団体概要

北海道から沖縄まで全国にあり、69%が任意団体、法人格を持つ団体の41%がNPO法人。団体立ち上げは2012年が最も多く、既存の団体が保養活動を始めたケースも多い。

◆団体スタッフ

運営スタッフは5~10人が最も多く、ボランティア数は実施日数に比例する。有給スタッフを持たない団体が69%をしめ、有給スタッフを持つ団体のほとんどが他の事業も行っている。40~50代の女性が多い傾向にある。

◆団体の財政状況

50~200万円の予算規模が多く47.66%。収入については71%が寄付金、15%が助成金、参加費は4%。寄付金に大きく頼った活動だが、年々寄付金収入は減少傾向にあり、支出では、参加者交通費が40%を占める。

◆プログラム型保養

年1回開催が65%、年2回が19%。平均参加者数は27.2人で、平均滞在日数は5.3日、応募者に対して受入可能な数は少なく、7割程度の人しか保養に行けていない。

◆参加者の属性

保護者同伴が最も多いが、共働き世代やシングルマザーは保養に行きにくい問題がある。中高生は部活の関係で保養に参加できにくい傾向にあり、兄弟姉妹の年齢差が大きい場合、受け入れ先が少ない傾向にある。参加者の居住地は福島県中通りが最も多く、次いで浜通り。北関東、南関東や強制避難、自主避難者も参加している。

◆参加費と経費

「参加費あり」が71%。一人当たりの受け入れにかかる直接費・間接費含め1プログラムで平均79,391円。

◆主な課題

活動資金不足、スタッフの人数不足、支援に対する関心の低下などが上げられ、その他にもマッチングが上手くいかないやスタッフの疲弊、無償で先が見えないボランティア活動をやる気のみで継続している団体が多い。

◆改善希望点

国や自治体で保養をやってほしいとの声が多く、当事者の需要に対し行政の代わりに保養を受け入れ続けていると考える団体が多数ある。

◆ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

その活用は12%と低く、福島県の団体が申請主体であること、6泊7日以上であることがハードルになっている。

資料④「子ども・被災者支援法」抜粋

1条

当該放射性物質による放射線が人の健康に及ぼす危険について科学的に十分に解明されていないこと等のため、一定の基準以上の放射線量が計測される地域に居住し、又は居住していた者及び政府による避難に係る指示により避難を余儀なくされている者並びにこれらの者に準ずる者(以下「被災者」という。)が、健康上の不安を抱え、生活上の負担を強いられており、その支援の必要性が生じていること及び当該支援に関し特に子どもへの配慮が求められていることに鑑み、子どもに特に配慮して行う被災者の生活支援等に関する施策

2条 第5項

子ども(胎児を含む。)が放射線による健康への影響を受けやすいことを踏まえ、その健康被害を未然に防止する観点から放射線量の低減及び健康管理に万全を期することを含め、子ども及び妊婦に対して特別の配慮がなされなければならない。

8条 第1項

国は、支援対象地域で生活する被災者を支援するため、…(中略)…自然体験活動等を通じた心身の健康の保持に関する施策…(中略)…を講ずるものとする。